

## 指定国立大学法人構想 取組の進捗状況（令和5年度）

### アウトカム1. "Student-centered learning"の実現と多様な学生・教員の獲得

- 「B2D特別選抜（B2Dスキーム）による教育実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 修士課程修了までに「国際経験」を経た学生の割合を90%以上へ・・・・・・・・・・ 3
- 学生の声を活かした学修環境の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

### アウトカム2. 研究成果の世界的認知度の向上

- Tokyo Tech ANNEX の設置、海外大学・企画等との連携教育研究実施・・・・・・・・ 5

### アウトカム3. 新規・融合分野の研究領域の開拓

### アウトカム4. 新たな領域の知の社会実装等の社会連携活動の強化

- 多元レジリエンス研究センターの設置、  
喫緊の社会課題に柔軟に対応する研究の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

### アウトカム5. 教育研究基盤発展の自立化

- 学長のリーダーシップとガバナンス体制の高度化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

# 「B2Dスキーム」による教育実施

## ◇B2Dスキーム

B2Dスキーム（博士志向教育プログラム）は、本学の強みである研究を通じた教育を最大限に活かした学修プログラムであり、学生一人ひとりのキャリアを踏まえたテーラーメイド型のカリキュラム（学士課程では B2D 特別学修課程，大学院課程では原則，標準学修課程）を設定している。将来を見据えた学修計画により，学士課程 2 年次から博士後期課程までを通じて，「Student-centered learning」に基づいた学生の主体的な学びを重視した教育を一貫的に行うことで，既存の枠を超えた，社会を牽引できる傑出したオンリーワンの博士人材の輩出を目指している。

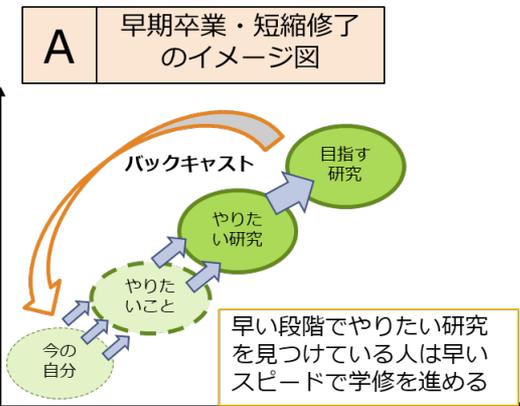
## ◇これまでの取り組み

- 博士後期課程への進学を視野におき「早く研究始めたい！」という意欲ある学生を積極的に支援することを目的に、「B2Dスキーム」制度を構築し、令和元年度から開始した。
- B2Dスキーム特別選抜は、学士課程 2 年次に行うため、令和元年度入学の学生が第 1 期生となる。これまで令和 2 年度第 1 期生 17 名、令和 3 年度第 2 期生 15 名、令和 4 年度第 3 期生 16 名、令和 5 年度第 4 期生 8 名の 4 年間で合計 56 名を選抜した。
- 令和 5 年度までに 15 名が早期卒業し、大学院に進学し本格的な研究を開始した。また、第 1 期生のうち 2 名が修士課程を短縮修了して、博士後期課程に進学した。第 1 期及び第 2 期の履修学生のうち、半分以上が早期卒業しており、全学の早期卒業の割合と比較しても B2D スキーム履修学生の早期卒業率は高く、研究を志向する学生に適した仕組みと言える。
- B2Dスキームの修了要件の一つである「B2Dフォーラム」を令和 2 年度から令和 5 年度の間合計 7 回実施し、異分野の学生や様々な学年の学生との交流を行った。
- B2Dスキームの修了要件の一つに 2 週間以上の留学があり、当該留学に対し費用の援助を行っている。これまで 11 名に対して留学費用の援助を行った。

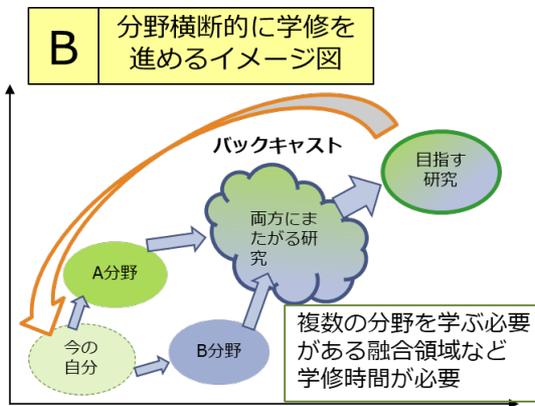
## ◇今後の活動

- B2Dスキーム履修学生数が第 4 期最終年度において、全学年合わせて 80 名以上の目標達成を目指し、積極的に活動を行う。
- 2024 年度末時点で 1 期生の博士後期博士後期課程の進学状況が明らかになるため、その結果を検証を行い、B2Dスキームの制度設計への反映できるように必要な検討を行う。

### B2Dスキームの学修スタイル



例えば「ロボットスーツの研究をしたいから、機械関連の学修を自主的に進める」など



例えば「バイオインフォマティクスの研究をしたいから、生命科学と情報科学を学ぶ」など

### B2Dスキームの5つのメリット

- メリット①** 学士課程2年次後学期から研究開始
- メリット②** 通常より早く希望研究室が決められる
- メリット③** テーラーメイド型のカリキュラム
- メリット④** 異分野の学生と交流できる
- メリット⑤** 留学費用の援助



(※) 「B2D」とは、**学士2年次 (B2)** から**博士後期課程 (D)** を目指す人のための本学独自の用語

2023年度B2Dフォーラムでのグループワークの様子 2

# 修士課程修了までに「国際経験」を経た学生の割合を90%以上へ

## ◇国際経験

グローバルな視点を持ち、躊躇なく世界で活躍できる人材を社会へ輩出するために、本学学生の意識を高めて国際的な活動への参加を促し、ほぼ全ての学生が、修士課程修了までに「国際経験」を経ることを目指している。

## ◇これまでの取り組み

- 1) 2022年度に学生の国際経験に関するガイドラインの見直しを行い「国際経験規範」を作成して広く学内に周知した。
- 2) 本学では当該規範の要件を満たす多彩な留学プログラムや国際交流の機会を全学的に提供している。他方で、各学院等で行っている活動や科目についても、当該規範に則しているものを選別して国際経験認定科目として科目認定した。
- 3) 学生自身による留学・国際経験の記録・申請の効率化、アカデミックアドバイザーや指導教員からのアドバイス、やり取りのプラットフォームを整備する目的で、2023年度に東工大学修ポートフォリオのシステム的大幅な改修を行った。
- 4) 2022年4月に大学への留学届等のオンラインでの申請の仕組みとして留学等海外渡航手続システムを構築した。  
システムに登録した海外渡航者数は、2022年度567名から2023年度の679名に着実に増加している。

## ◇今後の課題

様々な「国際経験」を積んだ学生が、国際的に活躍できる人材であることを保証するとともに、その活躍の様を積極的に社会に発信し、評価を得ることが必要である。これにより、留学以外も含めた「国際経験」を積んだ修学が高く評価され、企業等が国際化のために雇用する際の基準となる状況を作ることにより、学生のキャリアパス形成の一助となるようにしていきたい。

## ◇今後の活動

国際経験取得に繋がるプログラムの開発・提供を続ける。他方で、「国際経験規範」と「国際経験」を積むための取り組みを在学生、受験生（およびそのご家族）、産業界、社会に周知するとともに、学内外から広く意見を聞き、本学で取得する「国際経験」が社会に認知されて、評価されることで、学生が自主的に国際経験を取得するようになる状況を生むための方策を講じていく。



# 学生の声を活かした学修環境の向上 -学修支援などTaki Plazaを活用した取組-

## ◆Taki Plazaオープン以降の学生の声を活かした・学生による学修支援の主な取り組み例

- ピアサポーター（学生）による何でも相談（履修相談含む）、系所属相談（年間344人）、ピアちゃんのリプライ箱相談（年間235件）。学修コンシェルジュJr.国際班（学生）による留学生ヘルプデスク(年間31件)
- 学修コンシェルジュJr.編入生会等の学生主体（教職員が応援）の体制で企画運営する新入生ガイダンス（参加率：学士9割、編入10割）
- 地下1階相談ブースにおける学生同士のチュータリング（ILA東工大ライティングセンター、理学院数学、物理学、化学相談室、学修コンシェルジュJr.理工系教養科目チュータリング）を学期中は定期開催。
- 学修コンシェルジュJr.広報班（学生）によるTokyoTech Study Tipsシリーズ、私はこうして進路を決めたシリーズの発行、LINE,Slackによる初年学生への定期（月2）の情報発信。東京医科歯科大学学生と東工大生との座談会開催（2024年2月）

## ◆Taki Plazaオープン以降の学生同士・学生と教職員・学外含めた交流支援の取り組み例

- TPG、Attic Lab（建物をベースとする学生団体）による各種イベント（若葉祭、TakiFES、工大祭ビジコン等）
- 学修コンシェルジュJr.国際班による留学生と日本人学生の交流イベント（多言語チャット（学期中毎週）、キャンパスツアー、お散歩ツアー等）
- みらい人材応援プロジェクト（蔵前工業会と共催）（2021年～みらい創造チャレンジ、Taki Plaza講演会、留学生歓迎レセプション（日本文化紹介）、Tech Cooking Studio）
- 科学技術と芸術の融合プロジェクト（2022年～年2回宝塚歌劇観劇+事前事後学修）（医科歯科大学と東工大の教職員と学生が参加）

## ◆評価

- 国内他大学、国外からの見学・視察依頼増加（トピックス：Taki Plaza施設見学、Taki Plazaでの学生支援、ピアサポート、アカデミックアドバイジング（学修コンシェルジュ）など）
- 「東工大は学生支援で先進的な取り組みを行っている」との評価が学外で出始めている。

## ◆今後の展開

- 医科歯科大、東工大の学生交流の促進、「学生が学生を支援する」仕組み作りをさらに推進



**第17回 学生応援フォーラム**

2024.02.29(木) 14:00-17:00  
Hisao & Hiroko Taki Plaza B2F

総協賛あり  
※事前申込み必須  
※協賛：学生300円  
※料：900円

「開催スケジュール」  
※学修コンシェルジュによるガイダンス開催日

4/3(水)、4(木)、5(金)  
8(月)、10(水)、11(木)、12(金)  
15(月)、17(水)、18(木)、19(金)  
10:00-15:00  
4/7(日)

「開催スケジュール」  
3/27(水)-29(金)9:00-16:00  
Taki Plaza 地下1階  
※開催の場所以外はすべて学修支援センターが主催です

※ピアサポート活動は、  
大学公認の研修を受けた先輩学生による「何でも相談」です

問い合わせ先：  
東京工業大学学生支援センター  
未来人材育成部門(学生活動支援窓口)  
☎03-5734-7629, Taki Plaza B1

「わからないことは先輩に聞いてみよう」  
ピアサポーターによる  
**春の新入生相談会**

「ピアサポーター」  
授業の取り方や履修登録、サークル、大学のシステムなんでも聞いてね！

【開催スケジュール】  
場所：Taki Plaza 地下1階  
日時：13:30-16:30

4/3(水)、4(木)、5(金)  
8(月)、10(水)、11(木)、12(金)  
15(月)、17(水)、18(木)、19(金)  
10:00-15:00  
4/7(日)

「開催スケジュール」  
3/27(水)-29(金)9:00-16:00  
Taki Plaza 地下1階  
※開催の場所以外はすべて学修支援センターが主催です

※ピアサポート活動は、  
大学公認の研修を受けた先輩学生による「何でも相談」です

問い合わせ先：  
東京工業大学学生支援センター  
未来人材育成部門(学生活動支援窓口)  
☎03-5734-7629, Taki Plaza B1

## ◇Tokyo Tech ANNEX

海外の大学、研究機関、企業等と連携して行う国際的な教育活動、広報活動及び研究活動を戦略的に推進、実施し、本学教育研究の発展に寄与することを目的とする、新たな海外拠点。Tokyo Tech ANNEX Bangkok（タイ・2018年3月設置）、Tokyo Tech ANNEX Aachen（ドイツ・2019年3月設置）、Tokyo Tech ANNEX Berkeley（米国・2021年10月設置）の3箇所。

## ◇これまでの取組

各ANNEXの現地の状況やパートナーとの関係を活かした研究交流・学生交流を進めている。ANNEXの国際共同研究推進の活動により、国際的競争的資金獲得等の成果を得ている。広報ビデオ、Tokyo Tech VR（バーチャル東工大）の作成等により、広報活動も進めている。

## ◇2023年度の活動

### ANNEX Bangkok

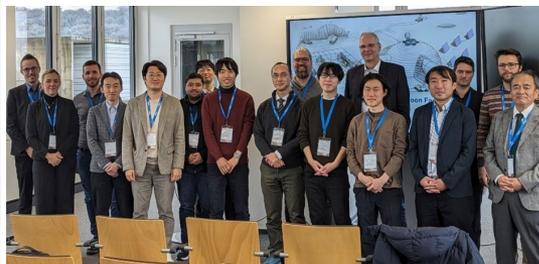
- 毎年開催しているResearch Showcaseでは、本学の最先端の研究を紹介し、現地の企業や大学等からの多くの参加を得ている。2023年度は“Various Modalities in AI for Industry”をテーマに共催のタイ国立科学技術開発庁（NSTDA）の研究者もゲストスピーカーとして研究紹介を行い、約100名の参加があった。
- 2007年からNSTDA及びタイの大学と実施している本学のTAIST国際連携大学院の支援を通じ、国際的な教育活動を推進している。

### ANNEX Aachen

- 本学の協定校であり、ANNEXを設置しているアーヘン工科大学との研究交流を活発化させるため、毎年Joint Workshopを開催し、2023年度は本学、アーヘン工科大学より計19名の研究者が“Aerospace”をテーマに最先端の研究を報告。関係者のみ参加可とし、約30名が参加した。
- アーヘン工科大学の留学フェアに毎年本学のブースを設け、学生に本学への交換留学制度を直接紹介している。また、博士後期課程学生の共同指導プログラムを引き続き実施した。
- 日本とドイツ両国における政府等のファンド申請に関し、国外協力機関としてアーヘン工科大学と本学が協働している。

### ANNEX Berkeley

- 2023年9月にカリフォルニア大学バークレー校日本研究センター、本学リベラルアーツ教育研究院と共催で「日本の授業研究の改革」をテーマにコロキアウムを開催した。
- ジェロントロジーをテーマに、ハワイ大学マノア校との連携について昨年度に続き協議を行った。2023年9月にハイブリッド形式により本学より3名の教員が研究内容を紹介するとともに、本学未来社会DESIGN機構の協力によるFuture Thinking Workshopをハワイ大学コミュニティカレッジの学生、スタッフと行った。この成果をもとに同大学と本学と共同で国際交流基金のファンドに申請した。



左：2024 Research Showcase (ANNEX Bangkok)

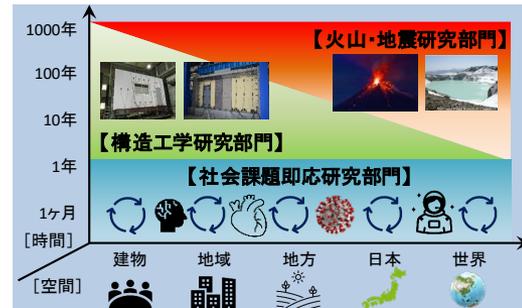
中央：  
2023 Joint Workshop (ANNEX Aachen)

右：  
ハワイ大学での  
Future Thinking Workshop (ANNEX Berkeley)

# 多元レジリエンス研究センターの設置、喫緊の社会課題に柔軟に対応する研究の強化

## ◇ 多元レジリエンス研究センターについて

時間軸と空間軸の異なる多元的な災害に対してシームレスに対応できる組織を構築する(右図)。緊急性の高い課題への即時対応できる体制、将来的な社会課題を議論し、その対応に向けた新たな協働の場、社会還元の機能を形成する。学内外の研究者の叡智を結集する器として、**科学技術創成研究院のシンクタンク機能の強化と社会への貢献を加速させる**と共に、この過程で新たな研究ユニットを生み、**未来の安全・安心を担う学術領域の創成、次世代の人材育成を図る**。



## ◇ これまでの取組

- 2023年4月 1日 多元レジリエンス研究センターを設立した。
- 2023年5月15日 東京工業大学百年記念館「多元レジリエンス研究センターキックオフシンポジウム」を開催。  
→ 民間企業の技術者を中心として**約80名**が参加
- 2023年11月17、18日 草津温泉ホテルヴィレッジ「火山噴火と防災および観光シンポジウム2023」を開催。  
→ 火山学者、観光関係者、一般市民など**約350名**が参加
- 2024年1月11日～2月15日 日本免震構造協会「令和6年能登半島地震 免震建物調査」に参加
- 2024年2月17日～3月15日 文部科学省「能登半島地震に係わる被災度区分判定調査」に参加



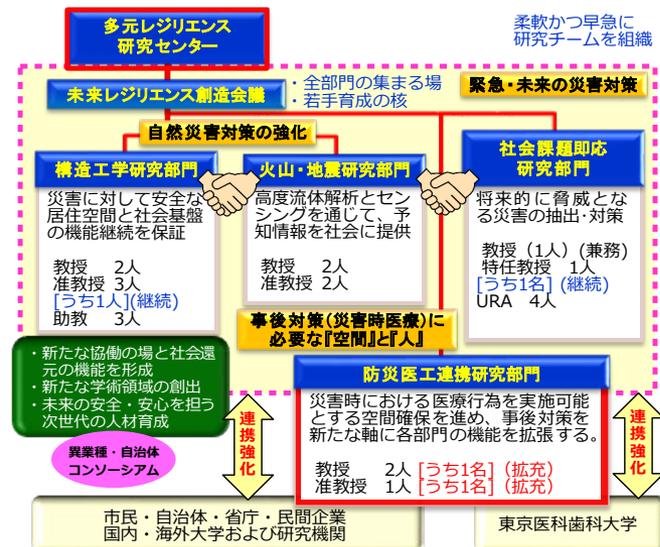
火山噴火と防災および観光シンポジウム2023



能登半島地震における調査

## ◇ 今後の展開

- 2024年4月から**新たに「防災医工連携研究部門」**を設立し、東京医科歯科大学との連携を強化。災害時における医療行為を実施可能とする空間確保技術を構築する。(令和6年度 教育研究組織改革分(組織整備)(継続拡充))
- 【未来レジリエンス創造会議】未来社会DESIGN研究センター、未来の人類研究センターと共にunknownな社会課題を抽出するためのシンポジウム等を企画する。



# 学長のリーダーシップとガバナンス体制の高度化

## ◆新大学設立に向けた動き

### ◇大学統合

令和5年12月13日、国会において、国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学を統合し、「国立大学法人東京科学大学」を設立することを含む国立大学法人法の一部を改正する法律が成立。これにより、令和6年10月1日に、東京工業大学と東京医科歯科大学が一法人一大学として統合し、東京科学大学が設立されることが正式に決定した。学長の強いリーダーシップにより、基本合意書記載どおりの新大学発足へ向け着実に進めている。

### ◇ブランディング

学生、教職員、卒業生、地域の方などが参加し、みんなで考えるブランディングプロジェクト「東京科学大学Brand Action！」を進めている。「東京科学大学Brand Action！」は学園祭での新大学イメージ投票からスタートし、ブランドイメージと理念体系・VI（ビジュアルアイデンティティ）作成に向けたワークショップ等これまで延べ6,000人超の方に参加いただいている。両大学の伝統と先進性を生かしながら、新しい大学を共に創っていく。

## ◆ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DE&I）の促進

### ◇本学の構成員の多様性を促進する施策

女性限定の教員公募や、学士課程入試の総合選抜および学校推薦型選抜における「女子枠」の導入などに継続して取り組んでいる。意識改革の推進施策として、D&Iの考え方の理解浸透に向けた対話の会の実施、アンコンシャスバイアス研修の実施、SOGIガイドラインの策定などを行ったほか、多様性の評価指標開発などのマネジメント改革も積極的に行っている。

### ◇環境整備の加速

大隅良典記念奨学金に新たに女子学生枠を設置した。また、女性専用休憩室・パウダールームの増設・新設、多目的トイレなどバリアフリー設備の拡充、外国人活躍支援活動の充実、ハラルやベジタリアン推奨メニューも提供するつばめテラスのオープンなど、環境整備を着実に進めている。



東京科学大学の設立が正式決定



新大学イメージ投票の様子



新たにオープンしたつばめテラス